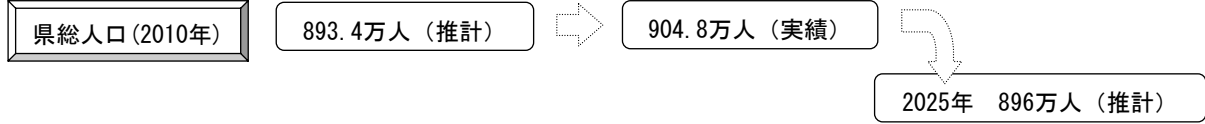


## 新たな政策課題の検討に向けた論点

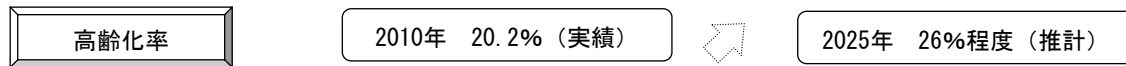
### 1 神奈川における人口動態

#### (1) 当初の推計を上回る人口増が続いているが、伸びは鈍化、そして減少へ



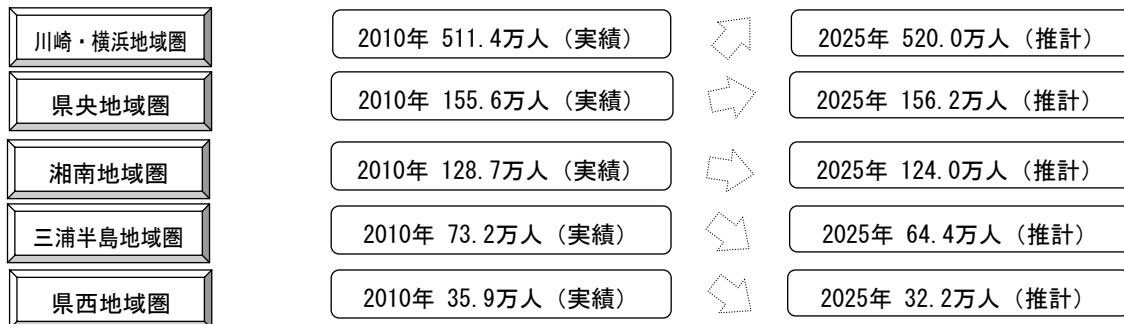
これまでの推計では、県の総人口のピークを2019年、903.1万人とし、以後、減少に転じると見込んでいたが、推計に比べてピークが若干高くなるとともに、その時期が後ろにずれる可能性はあるものの、その後はこれまで通り減少に転じると予測。

#### (2) 全国を上回るスピードで高齢化が加速



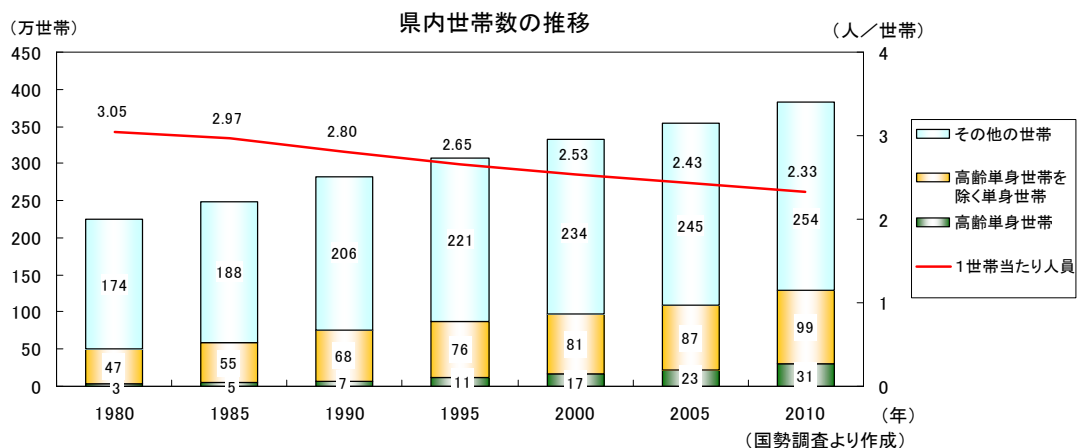
団塊の世代をはじめ、高度経済成長期に神奈川に転入してきた世代の高齢化が進行するため、現時点では全国(23.1%)に比べて神奈川の高齢化率は低いものの、今後、全国を上回るスピードで超高齢社会へ移行することを予測。

#### (3) 地域間の人口動向の違いが顕著に



三浦半島地域圏や県西地域圏では、人口減少が顕著であることを予測。

#### (4) 世帯構造の変化が新たな社会問題を生じさせる



単身世帯が増加し、1世帯あたり人員が減少する傾向が続いている。

## 2 政策分野別の基本方向（検討のためのフェイスシート）

分野	1 エネルギー・環境
基本構想	<p>&lt;2025にめざすすがた&gt;          将来にわたり、安全・安心なエネルギーを安定的に確保するために、原子力に過度に依存しない、地域が中心となった分散型のエネルギー体系の構築をめざします。          また、県民、NPO、企業、団体、行政などすべての活動の担い手が、日常生活や事業活動の中で、より積極的に環境に配慮して行動することにより、持続可能な社会の構築をめざします。          さらに、丹沢大山や水源の森林、里地里山など、多様で豊かな自然環境の保全・再生と活用をめざします。</p> <p>&lt;政策の基本的方向&gt;          1 神奈川からの新たなエネルギー政策の展開          2 地球温暖化対策の推進          3 循環型社会づくり          4 生活環境の保全          5 自然環境の保全・再生と活用</p>
<p>&lt;新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産業、交通、都市基盤の効率化、コンパクト化が進むとともに、個人消費エネルギーの減少により、エネルギー需給の変動が予測されるのではないかな。</li> <li>○ 住民の自然との共生や、環境保全への意識の高まりが期待される一方、耕作放棄地の増加や丹沢大山に生息するニホンジカの高密度化による植生の衰退等により、農地や森林において適切な管理水準を維持できなくなる恐れがあるのではないかな。</li> </ul>	

分野	2 安全・安心
基本構想	<p>&lt;2025にめざすすがた&gt;  東日本大震災などを踏まえ、地震・津波をはじめとする大規模災害への対策を強化し、県民のいのちを守る体制づくりやまちづくりを進めます。  また、防犯や防災、生活の安心を確保するため、様々な活動に取り組む担い手のネットワークを構築するとともに、防犯や防災に配慮したまちづくりを進めることなどにより、県民が安全で安心してくらせる地域社会の実現をめざします。</p>
	<p>&lt;政策の基本的方向&gt;  1 大規模な災害への対応力の強化  2 犯罪や事故のない安全な地域社会づくり  3 生活の安心の確保  4 基地対策の推進</p>
<p>&lt;新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地震や津波等の災害予測の見直しにより、住民の防災意識や災害に対する不安が高まる一方、地域住民の減少や都市基盤の集約化、効率化、高度化等に対応した防災施設・設備の整備が求められるのではないか。</li> <li>○ 地域の自立的な防犯、防災ネットワークへの期待が高まる一方で、高齢化、コミュニティの弱体化、地域住民の減少などへの対応を検討する必要があるのではないか。</li> </ul>	

分野	3 産業・労働
基本構想	<p>&lt;2025にめざすすがた&gt;</p> <p>産学公連携による技術革新や、成長産業の集積により産業競争力の強化を図るとともに、地域資源を活用した商店街やまちの魅力づくりを進めます。</p> <p>また、農林水産業の分野では、地産地消や様々な担い手の参画を推進し、農林水産業の活性化を図ります。</p> <p>さらに、安心して将来の生活設計を描くことができるよう、労働環境を整備するとともに、新たなキャリア形成などに挑戦できる社会をめざします。</p> <p>&lt;政策の基本的方向&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 神奈川の力を生かした産業集積の促進</li> <li>2 魅力ある地域資源を生かした産業の振興</li> <li>3 農林水産業の活性化</li> <li>4 生き生きと働くための就業支援と職業能力の向上</li> </ol>
	<p>&lt;新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 労働力人口の減少においては、社会に貢献できる人材の養成に注力するとともに、若者、女性、高齢者等の潜在的労働力の活用を図る必要があるのではないか。</li> <li>○ 高付加価値型の成長産業を集積し、グローバル化に対応しつつ、県内産業の活性化を目指す必要があるのではないか。</li> <li>○ 高齢化の進展によりニーズが増大する介護・医療などの産業の創出と、雇用のマッチングを進める必要があるのではないか。</li> </ul>

分野	4 健康・福祉
基本構想	<p>〈2025にめざすすがた〉</p> <p>年齢や障害の有無などにかかわらず、一人ひとりが尊重され、その人らしく、生き生きとした生活をおくることのできる地域社会の実現をめざします。</p> <p>また、保健・医療・福祉にかかわる多様な担い手のネットワークのもと、必要なときに必要なサービスが提供され、誰もが安心して、健康に過ごすことができる地域医療体制の整備や保健・医療・福祉人材の確保・定着を図ります。</p> <p>〈政策の基本的方向〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 とともに生き支え合う地域社会づくり</li> <li>2 高齢者を標準とするしくみづくり</li> <li>3 障害者が地域で安心してらせるしくみづくり</li> <li>4 地域における保健・医療体制の整備</li> <li>5 保健・医療・福祉人材の育成と確保・定着</li> </ol>
	<p>〈新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療、介護需要の増大に、持続的に対応する仕組みと、元気な高齢者が地域の様々な担い手として社会に参画し、貢献できる仕組みを構築する必要があるのではないか。</li> <li>○ 高齢者を始めとする単身世帯の増加を踏まえ、地域での孤立を防ぐ取組みを進める必要があるのではないか。</li> </ul>

分野	5 教育・子育て
基本構想	<p>〈2025にめざすすがた〉</p> <p>子どもを生み育てることを社会全体で支援する環境の整備や、未来を担うすべての子どもたち一人ひとりが、育つ環境にかかわらず、社会全体で大切に生まれ、多くの人々とかかわることで豊かな人間性や社会性を身に付け、将来に夢や希望を持つことのできる社会の実現をめざします。</p> <p>また、地域に開かれた学校づくりや、子どもや保護者の信頼と多様化するニーズに応える学校教育の提供を進めます。</p> <p>〈政策の基本的方向〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども・子育てを支える社会環境の整備</li> <li>2 支援を必要とする子ども・家庭への対応</li> <li>3 若者が心豊かに育ち自立できる社会づくり</li> <li>4 希望に満ち信頼あふれる学校づくり</li> <li>5 時代や社会の変化に対応した学びの推進</li> </ol>
	<p>〈新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子化の進展に歯止めをかけるため、子どもを生み育てるための環境整備への取り組みを進める必要があるのではないか。</li> <li>○ 労働力人口の減少を見据えて、将来の社会・経済を支える人材の養成を進めるほか、家族機能や地域コミュニティの弱体化を念頭に、社会全体で子ども・若者の健全な成長と育成を支援する仕組みづくりが必要となるのではないか。</li> </ul>

分野	6 県民生活
基本	<p>&lt;2025にめざすすがた&gt;          県民一人ひとりの個性や可能性を生かしながら、お互いに支えあい、ともに生きる地域社会の実現をめざします。          また、地域の課題解決に取り組むNPOなどが活発に活動できる体制整備や、生涯を通じて、文化芸術やスポーツを楽しむための環境づくりなどを進めることにより、ゆとりのある生き生きとした県民生活の実現をめざします。</p>
構 想	<p>&lt;政策の基本的方向&gt;          1 ともに生きる地域社会の実現          2 新しい公共を担う多様な担い手への支援          3 文化芸術に親しむ環境づくり          4 生涯を通じてスポーツを楽しむくらしづくり          5 くらしと行政の情報化の推進          6 県民の対話による開かれた県政の推進</p>
<p>&lt;新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）&gt;          ○ 全県的な人口の減少は、税財政規模の縮小と総量としての行政サービスの縮小をもたらすため、社会基盤の整備において一人あたり負担が増加する。このため、コンパクトな行政サービスへのシフトとともに、公民の役割分担、サービス費用の個人の負担のあり方を見直す必要があるのではないか。          ○ 少子・高齢化に伴う現役世代の高負担や不透明な経済成長による生活不安が懸念される一方で、ゆとりある市街地や居住環境による暮らしの充実が期待されるのではないか。</p>	

分野	7 県土・まちづくり
基本構想	<p>&lt;2025にめざすすがた&gt;        誰もが快適で安心してくらすことができるよう、地域の特色や資源を生かした都市づくりと、県外や都市間相互の人やもの、情報の円滑な流れを促進するネットワークの充実・強化による活力ある県土づくりを進めます。        また、特色ある風土や環境、景観の保全・活用など環境との共生を図ることで、次の世代に引き継げる持続可能な県土の形成をめざします。</p> <p>&lt;政策の基本的方向&gt;        1 次の世代に引き継げる持続可能な県土づくり        2 総合的な交通ネットワーク形成の推進        3 美しく住みやすい住まい・まちづくり        4 地域の特性を生かした地域づくり</p>
<p>&lt;新たな政策課題に向けた検討の方向性（例）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域人口の減少においては、都市部への集約化、まちのコンパクト化が進むため、持続可能な県土づくりを進める必要があるのではないか。</li> <li>○ 分散化による郊外居住や増加する高齢のくらしを踏まえ、地域の特性を生かしたまちづくりや、安心して利便性の高いまちづくりが必要になるのではないか。</li> </ul>	